高知県感染症発生動向調査（月報）

2022年11月

高知県感染症情報センター
高知県衛生環境研究所
TEL:088-821-4961　FAX:088-825-2869
http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/
E-mail：130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第44週(10月31日～)から第47週(～11月27日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における11月の上位6疾患の合計は20.36で10月の21.49と比べて横ばいだった。同時期を過去10年間で比較すると、コロナ1年目に当たる2020年の15.41に次いで少ない数字であった（平年は40～60台）。

1位は感染性胃腸炎で11.63と10月（10月1位8.54）に比べて増加した。2位はRSウイルス感染症で2.95（同3位4.02）と減少、3位は手足口病で2.42（同2位5.10）と減少した。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で1.55（同4位1.60）、5位は突発性発疹で1.03（同6位0.98）、6位は流行性角結膜炎で0.78（同7位0.81）といずれも横ばいであった。

<全国の新型コロナウイルス感染症　COVID-19>

わが国では9月26日から全数把握の方式が変更された。発症届を医療機関が提出するのは、重症化リスクの高い者だけとなり、低リスク者は患者自身で届け出することになった。

α株やδ株に比べて、肺よりも上気道で増殖し、重症化はしにくいが、潜伏期間が短く、強い感染力をもつオミクロン株（ο株）が、2022年1月に第6波を引き起こした。その後は一貫して流行株はο株であるが、亜種がBA.1.1→BA.2→BA.5へと主流が置き換わりながら、感染力を強めている。7月には第7波が到来し感染者数が激増し、遅れて死亡者数が増加した。9月になってようやく減少に転じたものの、10月になって再び増加に転じ、この増加が第8波と呼ばれている。すでに第8波は既に第6波を超える規模の流行になっている。

12月5日時点で、世界では、感染者数は6億4390万人を、死者は664万人を超えた。日本の感染者数は25,268,073人、死者は50,461人となった（図1）。感染者数において、日本は世界で第7位の国となっている。

厚労省は日本赤十字社と協力して、11月6日～13日に献血を行った8260人を対象に、自然感染によって得られる抗N抗体の保有率を調べた。その結果、全体の保有率は26.5%だった。都道府県別では沖縄県が最も高く46.6%、大阪府40.7%、鹿児島県35.2%、京都府34.9%、熊本県32.9%と続いた。最も低いのは長野県で9.0%、徳島県13.1%、愛媛県14.4%、新潟県15.0%、岐阜県15.5%と続いた。高知県の抗体保有率は30.8%であった。

経時的な年齢階層別患者数を図2Aに、12月6日の時点で累積感染者数が人口に占める割合を図2Bに示す（総務省統計局作成の2021年8月現在人口推計を用いて算出https://www.stat.go.jp/data/jinsui/pdf/202108.pdf）。感染者の割合は、10歳未満がトップで31.01%(100人当たり31.01人が感染済み)、次いで10代が28.82%、20代が26.48%、30代24.58%、40代19.18%と続いている。ο株になって「年少者ほどかかりやすい感染症」に変容した。

COVID-19は高齢になるほど重症化しやすいが、第6波以降に致死率が低下した。δ株が流行した昨8月-9月までと、ο株による第7波まで（9月20日のデータ）とで致死率を比較すると、80代以上 約16.0%→3.2%、70代 5.9%→0.9%、60代 約1.6%→0.2%と低くなっており、ο株になって明らかに軽症化している。一方で、9月26日に報告方法が変更されて以降は、年代別重症化率と死亡率は公表されなくなった。

寒冷期を過ごした南半球の諸国では、コロナ前の規模のインフルエンザの流行があり、コロナの流行も同時にみられたという。日本でも今冬は3シーズンぶりにインフルエンザの流行が起きると予想されており、インフルエンザワクチン接種もさかんに勧奨されている。日本では12月初旬現在でまだインフルエンザの流行には至っていない。

表1　各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名　週	44週	45週	46週	47週	計
1	感染性胃腸炎	2.44	2.78	3.21	3.20	11.63
2	RSウイルス感染症	0.85	0.78	0.74	0.58	2.95
3	手足口病	0.75	0.64	0.55	0.48	2.42
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.38	0.41	0.40	0.36	1.55
5	突発性発疹	0.25	0.27	0.25	0.26	1.03
6	流行性角結膜炎	0.19	0.21	0.19	0.19	0.78

県内情報

１．全国との対比（定点当たり報告数）

日常的感染症は前月よりも減少して15.31となり、全国よりも少なかった。11月としてはコロナ2年目の2021年に次いで2番目に少なかった（平年は20～40台）。

高知県における11月の上位6疾患は次のとおりである。1位はRSウイルス感染症で5.56（10月1位13.70）と減少したが全国よりも多かった。2位は感染性胃腸炎で4.45（同2位4.70）と横ばいで全国よりも少なかった。3位は手足口病で2.40（同3位3.63）と減少し、全国と同等だった。4位は突発性発疹で1.15（同4位1.74）と減少したが全国よりも多かった。5位はA群溶血性レンサ球菌で1.04（同5位1.04）と横ばいで、全国よりも少なかった。6位は水痘で0.71（同7位0.59）と増加し、全国よりも多かった。

<高知県のCOVID-19>

高知県におけるCOVID-19の月別患者数と死亡者数を図3に示す。2021年8月は東京五輪とともに急増し計1,382人まで増加した（8月25日に1日最多の111人/日）が、秋の小休止をはさんで、2022年1月から急増し第6波に突入（2月11日に311人/日）した。3月、4月と小幅に減少、5月は再び患者数増加に転じ、5月10日に366人/日と最多を更新し、5月は合計6,178人と月間最多となった。6月は3,055人で半減した。第7波の7月は、1日最多を5回塗り替え、最多の12,898人/月を記録した。さらに、8月に入って増加に拍車がかかり、1日最多は7回塗り替られて8月24日には2,027人/日と最多を記録し、41,285人/月となった。8月下旬から、ようやく減少に転じ、9月は15,416人/月、10月は4,225人/月と減少したが、11月は9,201人/月と増加し、第8波の入り口にさしかかっている。

12月5日の時点では感染者は115,722人となり、死亡は先月から28人増えて338人となった。8月以降の死亡数の増加の原因は、患者絶対数の激増に加えて、高齢者の感染者割合が増加した（図4）ことによると推測される。集団発生（クラスター）は、GW後、6月下旬と8月にピークがあり（図5）、8月は高齢者施設と医療機関での発生が増加し、高齢感染者割合の増加をもたらした。9月以降は減少に転じたが11月にリバウンドしている。

2022年2月以降に高知県で検出・解析されたウイルス変異株の内訳を図6に示す。1月上旬の大半はδ株であったが、1月中旬以降にο株（BA.1）が増加し、主たる流行株に置き換わった。3月中旬からο株の亜種であるBA.2が増加し、4月以降に主流株に置き換わった。亜種BA.5が6月22日に県内で初めて検出され、7月中旬以降の主流株に置き換わっている。さらに新たな亜種が国内でも散見され注目されつつある。

県の対応ステージは、2021年8月19日に「非常事態（紫）に引き上げられたが、10月28日には「感染観察（緑）」に引き下げられていた。しかし、第6波の到来により、翌2022年1月7日「注意（黄）」、同14日に「警戒（オレンジ）」、20日に上から2番目の「特別警戒（赤）」に引き上げられ、さらには、2月12日～3月6日まで本県に「まん延防止等重点措置」が適用された。3月24日には病床利用率の低下を受けて「警戒（オレンジ）」に引き下げられた。7月の第7波で、「最大確保病床の占有率」が40%を超え、7月29日に「警戒」から「特別警戒（赤）」に、さらには8月16日に最も厳しい「当別対策（紫）」に引き上げ、同時に「BA.5対策強化宣言」を発出した。8月下旬以降に患者数減少したので、9月16日には「BA.5対策強化宣言」を終了し、「特別警戒（赤）」に、26日に「警戒（オレンジ）」に、10月6日には「注意（黄）」に引き下げた。11月17日には県の対応ステージの運用が見直された。第8波の入り口に立ち12月9日から「警戒強化（赤）」を発出した。

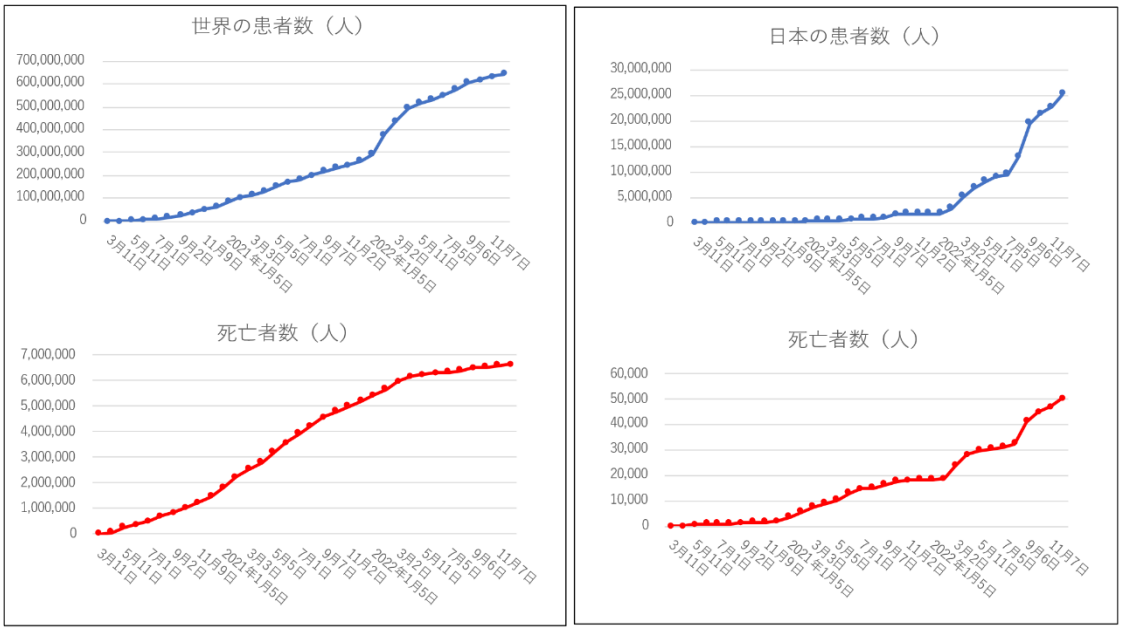
コロナワクチンについては、成人に対するブースター接種が進められ、3月から5-11歳の小児への接種が開始されたが、接種率は伸び悩んでいる。小児の感染者が激増しており、まれに脳症など重篤となる幼児が報告されるようになったことを受けて、10月24日から6か月-4歳への接種（努力義務）が開始された。ο株対応の

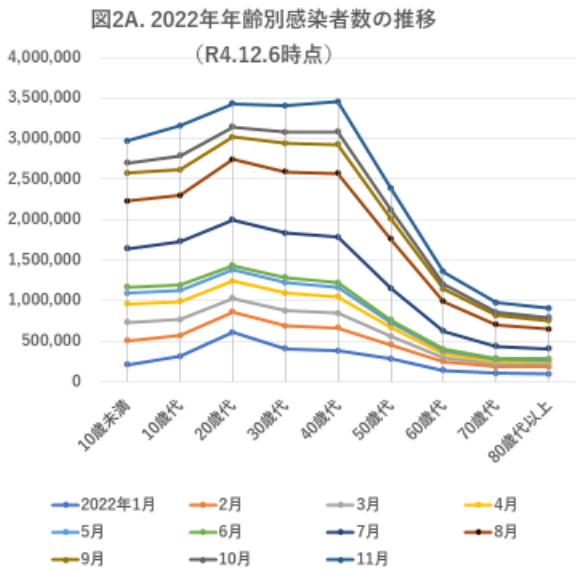
新たなワクチンも接種が進められている。表3に示すように、11月27日時点で、県下で3回目接種を受けた者（5歳以上）が68.4%、4回接種を受けた者が44.3%、5回接種を受けた者が7.0%である。

表2　各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名 ＼ 週	44週	45週	46週	47週	計
1	RSウイルス感染症	1.96	1.67	1.15	0.78	5.56
2	感染性胃腸炎	1.00	1.15	1.00	1.30	4.45
3	手足口病	0.59	0.59	0.52	0.70	2.40
4	突発性発疹	0.26	0.30	0.22	0.37	1.15
5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.37	0.22	0.15	0.30	1.04
6	水痘	0.00	0.19	0.30	0.22	0.71

図1. 2022年12月5日時点でのCOVID-19 （厚生労働省HPから）





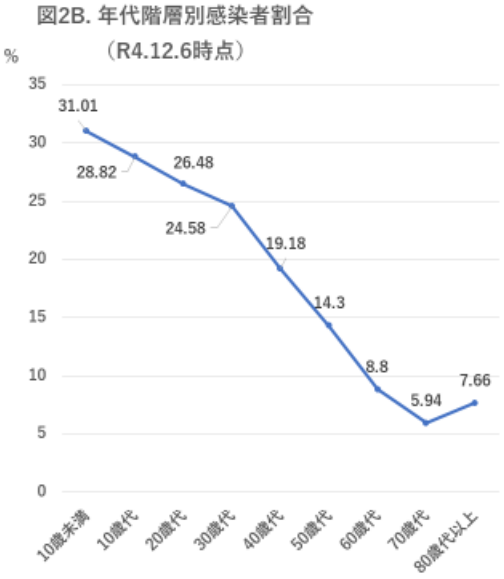
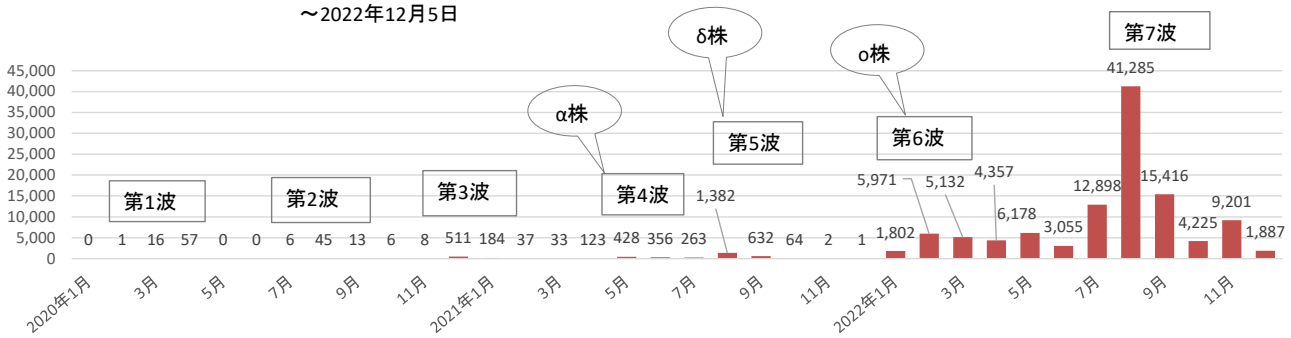


図3. 高知県のCOVID-19月別患者数（上）と死亡者数（下）
～2022年12月5日



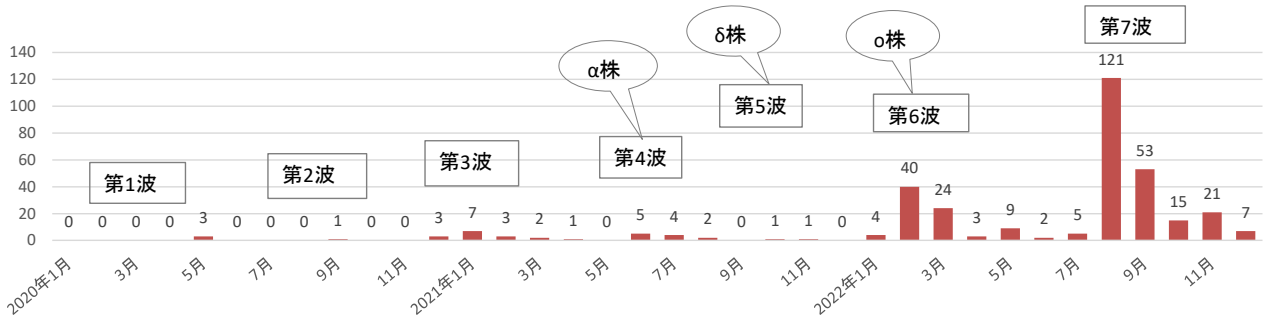


図4. 高知県COVID-19患者の年齢別比率

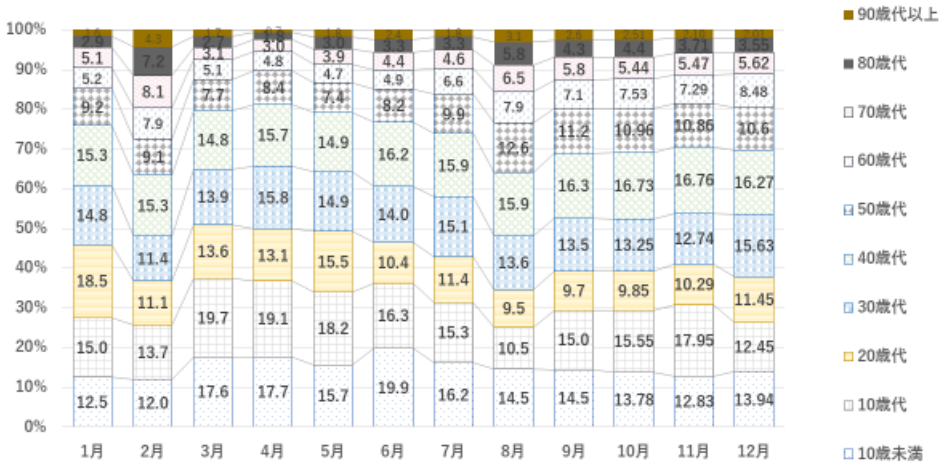


図5. 県下のCOVID-19集団発生件数（2022年）

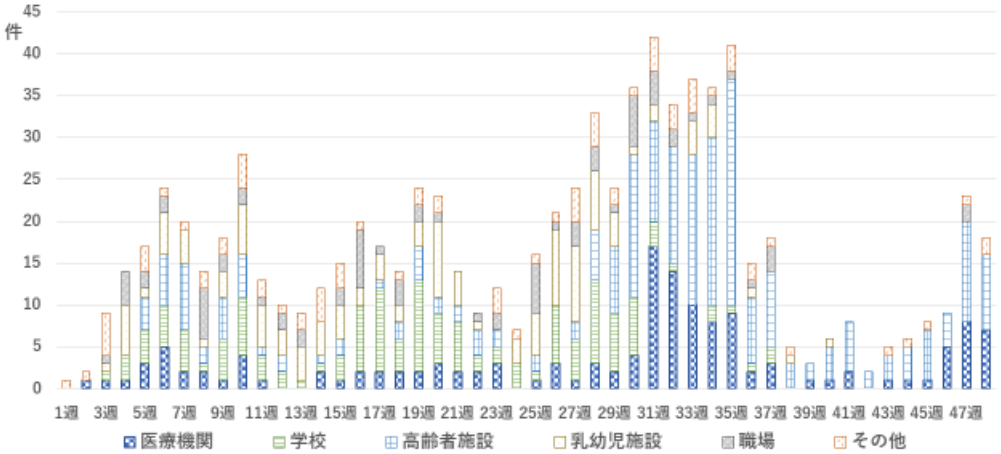


図.6 高知県で検出されたウイルス変異株の内訳

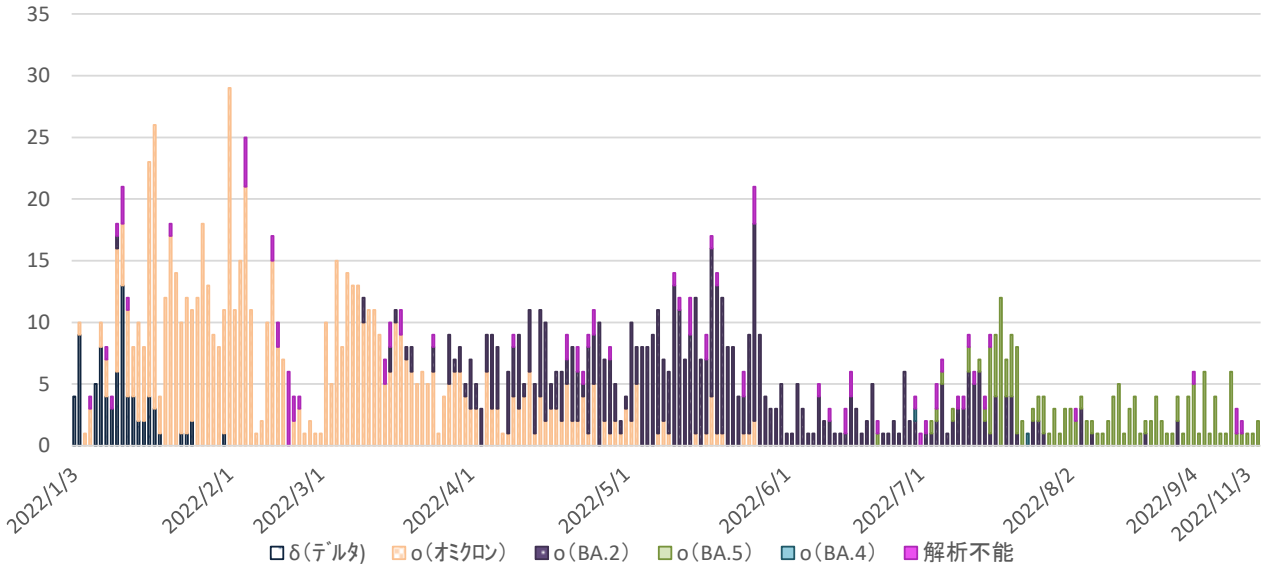


表3　コロナワクチン3回目･4回目及び5回目の接種率
（2022年11月27日時点）

	3回接種	4回接種	5回接種
全国（5歳以上）	69.0%	39.3%	6.3%
県全体（5歳以上）	68.4%	44.3%	7.0%

２．全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。パンデミックによる衛環研の業務増大のため、感染症発生動向調査として行ってきた病原体検出の事業を1月から休止していたが、12月1日から再開している。

３．主な疾患の発生状況

1）インフルエンザ

報告数　3名（10月　4名）。2020/21年に続いて2021/22シーズンも流行がなく、これは統計がある1998年以降で初めてだった。しかし、寒冷期を過ごした南半球諸国では2年ぶりに、コロナ前の水準でインフルエンザの流行が起きていることは示唆的である。中央東で2名、高知市で１名（小児1名と成人2名）が報告された。

2）咽頭結膜熱

報告数　9名（10月　7名）。過去10年で同時期としては2020年に次いで最少の報告数だった。高知市、幡多で表記の順に多く報告された。

3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数　28名（10月　28名）。7月以降は過去10年間で最も報告数が少ない。須崎、高知市、安芸から表記の順に多く報告された。

4）感染性胃腸炎

報告数　120名（10月　127名）。同時期としては過去10年で最も少ない報告数だった。県下全域から報告があり、高知市、安芸、中央西、中央東が特に多かった。

5）水痘

報告数　19名（10月　16名）。少ない数字で推移している。須崎、幡多、中央西、高知市から表記の順に多く報告された。

6）手足口病

報告数　65名（10月　98名）。例年は5-6月に流行が始まるが、今年は遅れて8月に流行が始まったが、流行規模は大きくない。幡多、中央東、高知市、須崎から表記の順に多く報告された。

7）伝染性紅斑
報告数　5名（10月　2名）。2020年9月以降は一桁の少ない報告数が続いている。須崎と高知市から報告された。

8）突発性発疹
報告数　31名（10月　47名）。想定内の変動である。

9）ヘルパンギーナ
報告数　2名（10月　24名）。8月から流行が始まったが規模は小さく、過去10年間で最も少ない。中央東と高知市から報告があった。

10）流行性耳下腺炎
報告数　1名（10月　0名）。2020年10月から2022年1月まで同時期として過去10年で最少が続き、7月以降も最少の報告数が続いている。幡多から1名が報告された。

11）RSウイルス感染症
報告数　150名（10月　370名）。コロナ流行が始まった2020年11月から2021年3月までゼロが続いた。2021年は5月から流行が始まり、7月に頂値1,543名を記録し、夏の大流行であり、10月以降に終息した。2022年は、7月から流行が始まり昨年に比べると緩やかに増加している。県下全域から報告されており、特に多かったのは、須崎、高知市、幡多である。臨床症状が酷似するヒトメタニューモウイルスも8月末から流行しており、定点報告疾患ではないので評価は難しいが、RSウイルスに匹敵、あるいはそれを上回るような流行となっている可能性がある。

12）流行性角結膜炎
報告数　2名（10月　0名）。2019年以降は一桁の報告数で推移している。

13）細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）
報告数　1名（10月　0名）。中央東から30歳代が1名報告された。年間10名前後の報告で推移していたが、2017年以降は6名/年 以下で推移している。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は1例もなく、成人例も近年減少している。

14）無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）
報告数　1名（10月　0名）。従来は年間20－30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年2名、2021年も3名と少なく、2022年は1名である

15）マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）
報告数　3名（10月　2名）。依然少なく、高知市から成人例3名が報告された。

基幹定点の月報疾患
16）メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
報告数　19名（10月　22名）。平年並みである。幡多、高知市、中央東から表記の順に多く報告された。

17）ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
報告数　1名（10月　0名）。年1-2名の報告が続いている。高知市から1名が報告され、2022年は2名である。

高知県感染症発生動向調査部会
前田　　明彦

高知県における月別全数報告疾患（令和4年11月）

類型	病名	報告月											総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
2	結核	6	5	8	6	4	9	1	3	7	6	9	64
3	腸管出血性大腸菌感染症							2					2
4	E型肝炎				1								1
	重症熱性血小板減少症候群			1						3	2	2	8
	つつが虫病											3	3
	日本紅斑熱					1	1	1	1	5	2	1	12
	レジオネラ症	1					2		2	1	1	1	8
5	アメーバ赤痢	2					1				1		4
	ウイルス性肝炎					1						1	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症			1		1	1		1	1	1	3	9
	クロイツフェルト・ヤコブ病				1								1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1	1							1	4
	後天性免疫不全症候群						1			1	2	1	5
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1										2
	侵襲性肺炎球菌感染症			2								1	3
	水痘（入院例に限る）			1		2							3
	梅毒	2	4	4	6	2	5	2	4	6	3	6	44
	播種性クリプトコックス症						1		1			1	3
	破傷風			1					2				3
	百日咳					1				1	3	3	8
総計		12	11	19	15	12	21	6	14	25	21	33	189

高知県感染症情報　月報(62定点医療機関)

2022年　　11月

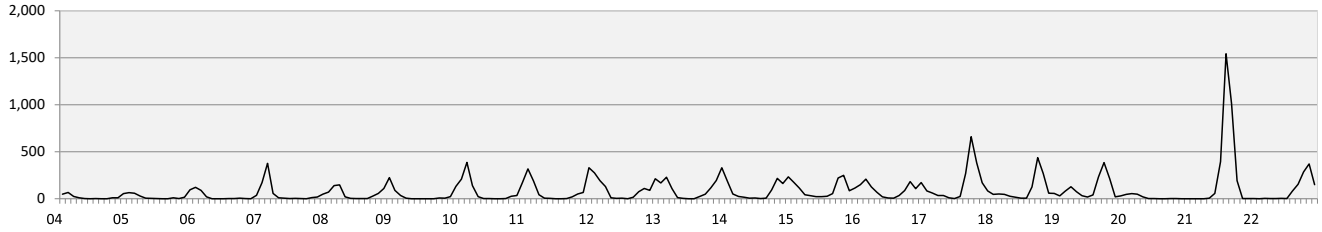
定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		2	1				3	4	
小児科	咽頭結膜熱			7			2	9	7	26
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		20		7		28	28	46
	感染性胃腸炎	10	32	60	10	5	3	120	127	197
	水痘			3	2	5	9	19	16	8
	手足口病		9	10		1	45	65	98	18
	伝染性紅斑			2		3		5	2	4
	突発性発疹	2	6	15	1	4	3	31	47	46
	ヘルパンギーナ		1	1				2	24	7
	流行性耳下腺炎						1	1		1
	RSウイルス感染症	5	14	74	8	19	30	150	370	1
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2				2		1
STD	性器クラミジア感染症		2	1				3	8	3
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ			2				2		1
	淋菌感染症		1					1	1	
基幹	細菌性髄膜炎		1					1		
	無菌性髄膜炎			1				1		
	マイコプラズマ肺炎			3				3	2	
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）									
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)									
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2	14			3	19	22	25
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1				1		
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		18	70	217	21	44	96	466	756	384
前月		27	78	371	25	75	180			
前年同月		23	57	173	23	36	72			
小児科定点数		2	7	11	3	2	5			

高知県感染症情報　月報(62定点医療機関)

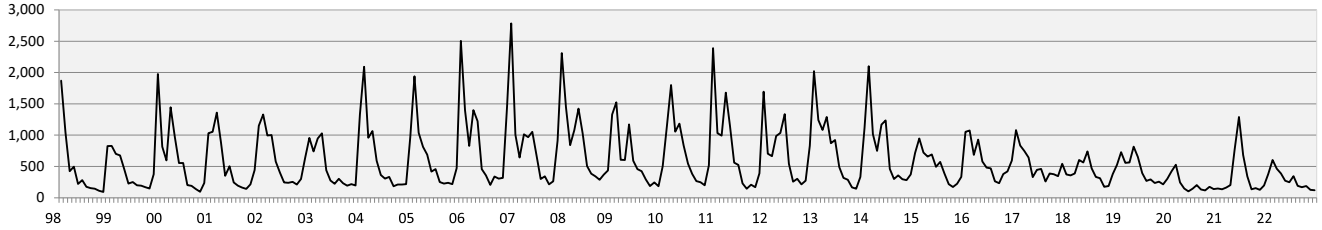
2022年　　11月　　定点当たりの人数

定点名	疾病名＼保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・小児科	インフルエンザ		0.18	0.07				0.06	0.09	
小児科	咽頭結膜熱			0.77			0.40	0.33	0.27	0.93
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.50		2.23		3.50		1.04	1.04	1.64
	感染性胃腸炎	5.00	4.57	6.67	5.00	2.50	0.60	4.45	4.70	7.04
	水痘			0.33	1.00	2.50	1.80	0.71	0.59	0.29
	手足口病		1.29	1.10		0.50	9.00	2.40	3.63	0.65
	伝染性紅斑			0.22		1.50		0.18	0.07	0.15
	突発性発疹	1.00	0.87	1.66	0.50	2.00	0.60	1.15	1.74	1.64
	ヘルパンギーナ		0.14	0.11				0.08	0.89	0.25
	流行性耳下腺炎						0.20	0.04		0.04
	RSウイルス感染症	2.50	2.01	8.22	4.00	9.50	6.00	5.56	13.70	0.04
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			2.00				0.67		0.33
STD	性器クラミジア感染症		1.00	0.50				0.50	1.33	0.50
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ			1.00				0.33		0.17
	淋菌感染症		0.50					0.17	0.17	
基幹	細菌性髄膜炎		1.00					0.13		
	無菌性髄膜炎			0.20				0.13		
	マイコプラズマ肺炎			0.60				0.38	0.26	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)									
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		2.00	2.80			3.00	2.38	2.75	3.13
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			0.20				0.13		
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
小児科定点分計		9.00	9.06	21.38	10.50	22.00	18.60	16.00	26.72	12.67
前月		13.50	10.85	38.15	12.50	36.75	35.20			
前年同月		6.50	8.01	17.42	7.68	18.00	13.80			

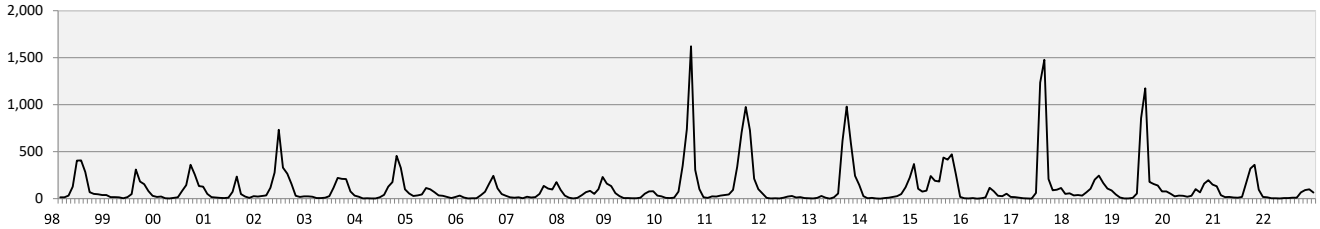
RSウイルス感染症



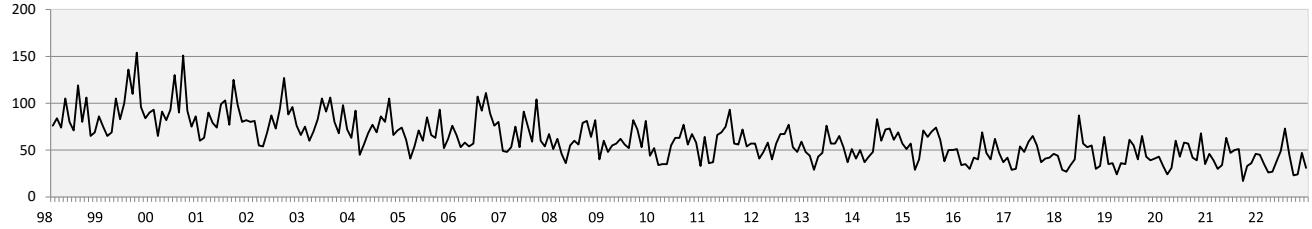
感染性胃腸炎



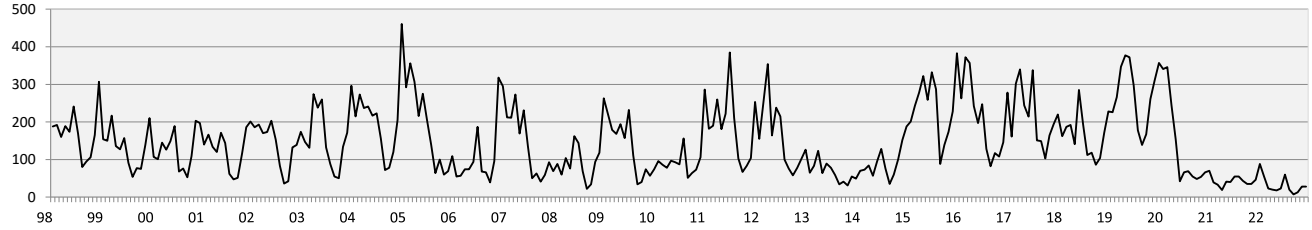
手足口病



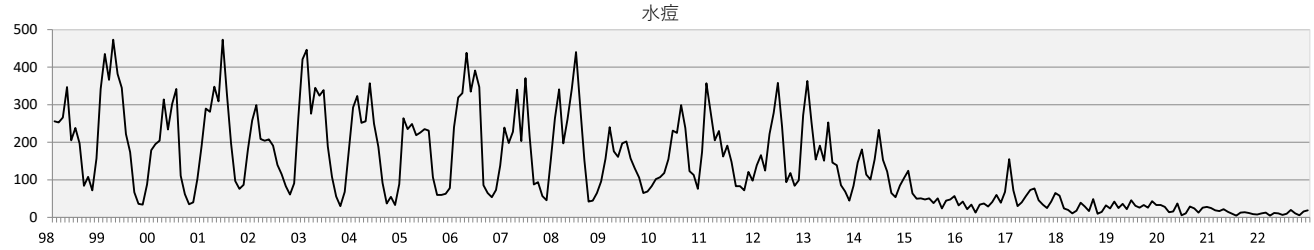
突発性発疹



A群溶血性レンサ球菌感染症



水痘



類型	病名	報告年																									総計
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	64	1939
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	64	1939
3	コレラ	1					1						1													3
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2						27
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		2	209
	腸チフス		1						1									1				1				4
	パラチフス	2																								2
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	2	245
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1			2				34
	E型肝炎												1		1							2	1		1	6
	オウム病			1		1														1						3
	Q熱	1	1	2				1																		5
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	9	6	4	8	61
	つつが虫病		9	5	2	4	5	7	6	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1	3	97
	デング熱												1			3	2	1				2				9
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16	12	223
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1													6
	マラリア								2					1								1				4
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	8	97
	レプトスピラ症											1		4	2	1				1						9
	計	20	21	26	12	23	21	19	16	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	32	554
5	アメーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	4	52
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3		3		1			2	1	1	2	2	2	64
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	21	20	10	5	9	134
	急性弛緩性麻痺																				1	2				3
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1		22
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1	3		1	36
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1		1	3		1		3	5	6	2	2	5	4	37
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		5	86
	ジアルジア症		1	2	1						1			1	1						1					8
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3	1	1	2	27
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	11	9	3	110
	水痘（入院例に限る）																	2	1	1	3		3	3	3	16
	髄膜炎菌性髄膜炎									1																1
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	44	371
	播種性クリプトコックス症																		1	3	5				3	12
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	3	39
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1							1							1		1	1					5
	百日咳																				173	172	35	3	8	391
	風しん										1	1			4	9	1				3					19
	麻しん										5															5
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	91	1438
新型	新型インフルエンザ											34														34
	新型コロナウイルス感染症																						663	3505		4168
	計											34											902	3505		4441
動物	鳥インフルエンザ													1												1
	計													1												1
総計		61	48	67	42	51	53	47	61	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	1116	3726	189	8618